

BeNews

2007 AUTUMN

学校法人別府大学は
おかげさまで間もなく創立100周年を迎えます

別府大学通信 NO.95

100周年記念で高句麗古墳壁画特別展 ……	2
第三者評価機関、「適格」と認定 ……	4
仏モンペリエ大学との交流が定着 ……	5
英ウインチェスター大学交換留学生 ……	6
アンケートに見る別大生意識 ……	8
キャンパス探訪・地理学研究室 ……	10
インタビュー・辻野功教授 ……	12
進路情報センターから ……	14
神宮に届いた手・硬式野球部 ……	15
大学・短大だより ……	16
明豊だより ……	18
新任者紹介 ……	20
事業報告・財務状況報告 ……	22



「デザイナーズキューブロック」木元 紀彰
2007年芸術文化学科卒業制作展から

学園創立100周年を記念する特別展 高句麗古墳壁画展を開催

別府大学附属博物館長 段上達雄

別府大学では、学園創立100周年記念特別展「高句麗古墳壁画展(仮称)」を、2007年11月21日(水)から12月20日(木)にかけて歴史文化総合研究センター(附属博物館新館)2階の第一展示室と展示ホールにおいて開催することになった。期間中は土・日曜日にも休まず、全期間開館する予定である。11月21日(水)午前10時40分からは開幕式を行い、午後1時からメディア教育・研究センター4階のメディアホールで蔚山大学の全虎兌教授による記念講演会を開催する。

この特別展は、西村駿一理事長が大韓民国大統領表彰を受けたことを契機に、大韓民国の東北アジア歴史財団のご厚意により別府大学で開催することになったもので、大学と財団とで共催し、在福岡大韓民国総領事館が後援する企画である。

【高句麗ってどんな国？】

高句麗は朝鮮古代三国のひとつである。『三国史記』に記された神話によれば、紀元前37年にジユモン(朱蒙)によって卒本(中国遼寧省本溪市)で建国されたという。その後、高句麗は丸都城(中国吉林省集安)に遷都し、四方に次第に勢力を伸ばしていく中で、遼東の公孫氏、魏、西晋、遼西の前燕と勢力争いを繰り広げた。そうした国際情勢の中で楽浪郡の占領によって漢文化を導入し、前燕を滅ぼした前秦から472年に仏教が伝えられ、文化的にも発展していった。19代高句麗王となった広開土王(好太王/373~412)は後燕と戦って遼東に勢力を伸ばし、南方の百済を攻めて百済王に臣従を誓わせた。その後、

百済が倭(日本)とともに新羅を攻めたので援軍を送って倭を追い返し、新羅を朝貢国にして勢力を南方にも拡大した。20代長寿王は平壤に遷都し、遼河以東を勢力下に置き、475年に百済の首都漢山を陥落させて百済王を殺害した。この頃が高句麗の全盛期といわれ、遼東半島から中国東北部、朝鮮半島の北半分を領有するに至った。5世紀後半になると、力をつけた新羅と百済の連合軍によって領土を大幅に削られ、危機感をもった高句麗は百済に接近するとともに、中国の南北朝両者に朝貢して友好を保ちつつ、新羅との対立を深めていった。北朝の陳を滅ぼした隋は、4回も高句麗攻撃を行ったが、これが隋の滅亡の原因の一つとなった。そして隋の後を継いだ唐からも5度の遠征を受けた。高句麗は百済と共に新羅に対抗したが、唐・新羅連合軍によって660年に百済の首都扶余は陥落し、国王たちは唐に連行された。663年には百済の残存勢力と日本の連合軍が白村江で大敗して百済は完全に滅亡した。そして遂に668年には高句麗も滅んでしまい、統一新羅が朝鮮半島を統一することになった。滅亡した百済と高句麗からは多くの政治亡命者たちが日本に渡来し、その後の日本文化に大きな影響を与えたのである。

【高句麗古墳壁画とは？】

中華人民共和国の「古代高句麗王国の首都群と古墳群」と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の「高句麗古墳群」は2004年に世界文化遺産に登録された。

中国の高句麗遺跡は吉林省集安市と遼寧省桓仁市に

分布する。桓仁市には高句麗初期の山城である五女山城があり、集安市には丸都山城と国内城、40基の古墳群が含まれている。ここには有名な好太王碑、大王陵、將軍塚があって、舞踊塚、角抵塚、散蓮華塚、三室塚、通溝四神塚などの壁画古墳が残されている。

北朝鮮の遺跡は平壤市、南浦市、平安南道、黄海南道安岳郡に分布し、高句麗国末期の江西三墓、徳興里壁画古墳、水山里古墳、安岳一号墳・同三号墳などの古墳63基が含まれ、そのうち16基の古墳に星宿や四神(玄武・青龍・朱雀・白虎)などの壁画が描かれている。

【展示の内容】

高句麗の文化は中国の強い影響を受けながらも独自の性格を持つようになったことが特徴である。平壤や集安などの古墳群には数多くの壁画が残されており、今回の展示では、その素晴らしい壁画を精細な写真パネルで展示するとともに、土器などの出土遺物や古墳の模型などで、高句麗の歴史文化について紹介する。特に集安市の古墳壁画の精細で美しいカラー写真の日本公開は今回が初めてで、その地の多くの壁画が傷ついてしまった現在、きわめて貴重な画像記録であるといえる。

なお、本展示では次のような構成を予定している。

高句麗の歴史

高句麗人の生活と文化

1)戦争・武器・軍隊・戦い

2)要塞

3)墓

4)貴族の生活 <家屋、服装、食物・食卓、娯楽、
軍事・訓練、狩猟、乗り物>

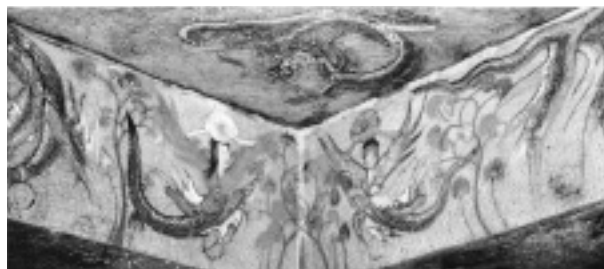
5)神の世界 <信仰・神獣>

6)仏教文化 <陰陽・五行・四神>

7)太陽・月・星座

8)王の発見

最近、高松塚はカビによる壁画の損傷が問題となり、解体して保存処理を行っている最中である。この高松塚やキトラ古墳に描かれた四神や人物像などの壁画は、高句麗古墳の影響を受けていると考えられている。この特別展は日本を含めた古代東アジアの激動の歴史に思いを馳せることのできるもので、多数の人たちに見てもらえれば幸いである。



日の神と月の神



玄武

大学、短大とも第三者評価で太鼓判

来年5月に学園創立100周年を迎えるにふさわしい第三者評価が相次いで下った。別府大学ならびに大学院は日本高等教育評価機構（JIHEE）によって07年度から2013年度までにわたり「評価基準を満たしている」と認定された。また、別府大学短期大学部（短大）は短期大学基準協会（JACA）により「評価基準を満たしており、適格と認める」と認証された。いずれも評価の全文は大学のホームページ<http://www.beppu-u.ac.jp>で公表している。（入試情報もこのホームページにあります）

これらの機関は全国の大学、短大の客観的評価のために設けられた財団法人で、申請に基づき、基本理念、教

育研究組織、教育課程、教職員、学生支援、管理運営、財務状況、社会や地域への貢献、教育研究環境など全般にわたって実地調査を踏まえて総合的に評価する。

4年制学部は全体として少人数教育が施されていること、地域連携活動に学生を参加させていること、社会動向への対応に努めていることなどが「高く評価」された。短大は総合短期大学として学生の多様なニーズに応えていること、独自の緊急時貸与金制度で学生支援に当たっていること、就職希望者が高い比率で就職しており、その支援活動も整っていることなどが「優れている」と特に評価された。

西村理事長に韓国大統領表彰

学校法人別府大学の西村駿一理事長は3月に韓国の盧武鉉大統領表彰を受けた。

韓国の「国民教育と国家社会の発展に寄与した功績」が評価されたもので、外国人は他になかった。大学・短大はもちろん、明豊中学・高校を含めて学園が西村氏のもとで全体として韓国との学術研究・教育交流に務めてきたことの現れだ。

留学生の受け入れをはじめとする韓国との交流は1986年に本格化し、現在では先方の国立、私立の大学校、大学など40余校と協力関係を築いている。4年制学部へ

の留学生は毎年度百数十人あり、ほかに短期留学生が数十人、夏季と冬季の国際セミナーへの参加者が多数にのぼる。07年度は6月初めから7月末にかけて毎週のように提携校の訪問団が見学や懇談に来訪したほか、台湾からは明豊の姉妹校の治平高級中学旅行団が交流に訪れた。中国、モンゴル、ベトナム、スリランカ、バングラデシュからの留学生受け入れも進んでいる。ヨーロッパの間でもフランスのモンペリエ大学、イギリスのウィンチェスター大学と提携して交換留学や交換教授が発展中である。こうした海外提携校は全部で65校に及んでいる。

大分香りの博物館、11月29日開館へ

大分県所蔵の旧香りの森博物館収蔵品を活用する施設として学校法人別府大学が建設中の「大分香りの博物館」が11月29日開館と決まった。旧学生寮、職員寮の跡地を地ならししての工事は、5月末から猛暑を経て休みなく続けられ、学術研究や教育のみならず、大分・別府の新たな観光資源としての期待も高まっている。

名称の公募には県内外から378件の応募があり、選考の結果、大分県が誇る博物館として最も分かりやすく、覚えやすい「大分香りの博物館」が選ばれた。

大分県から1年更新で貸与を受ける所蔵品は、全部で3760点。古代ローマ時代のガラスの化粧瓶や江戸時代の香炉、売り出されたときの化粧箱に入ったままの19世紀ヨーロッパの香水瓶と香水（裏表紙の写真参照）、香水をつくった蒸留器（同）、現代の様々な香水とその装飾品など、興味の尽きない品々がいっぱい。全てを一挙には展示できないので、ときどき一部を入れ替える。館内には芸術文化学科の白石邦俊教授によるマンガ・アニメーション見学コースも開設される。

定着したモンペリエ第3大学との交流

食物栄養科学部教授 井上富江

人文科学系のモンペリエ第3大学との交流が始まったのは、1999年であった。文部省（現文科省）の補助を受けて、先方のジャン・マリ・ブチ教授、ミシェル・ゲロー教授、本学の馬場典明教授、山本晴樹教授、井上富江の5名で「南フランスにおけるラテン化、ロマン化」についての共同研究を始めたことに起因する。それを機に、大学同士の交流協定を結ぶこととなり、同年10月、ミシェル・ヴェイユ学長がブチ教授夫妻とともに来訪し、西村駿一理事長、中村賢二郎学長（当時）との間で調印式をした。

その折、国際研究集会を開催し、ブチ教授の「南仏の歴史」と、井上の「トゥルバドゥールの風土と歴史」の2つの講演を行った。ヴェイユ学長は公開講座でモンペリエ第3大学の歴史を紹介すると共に、その名がこの大学の別名になっている南仏の詩人、ポール・ヴァレリーの「海底の墓地」という有名な詩の一節を朗唱した。非常に感動的な講演であった。

学生の交流がこれに続き、歴史学専攻の本学大学院生が初めて1名留学した。翌年はゲロー教授が講演に訪れるはずであったが、健康上の都合で急遽、国際交流部長をしていたアニー・フランス・ロランス教授が代わって来学、専門の「古代地中海世界」について非常に興味深い講演を行った。

彼女のお陰で、モンペリエ側からも是非留学させたい、という提案を頂き、細目を定めた。その翌年から毎年度、双方同数の学生が順調に相手方に留学している。

2001年にはゲロー教授が来学し、「南仏と大分両地方研究」という新たな共同研究を発足させた。ゲロー教授と文化財学科の飯沼憲司教授、それに山本教授と井上の4名による。研究集会では、「ローマにおける皇帝礼拝」についてゲロー教授が講演し、飯沼教授の「聖武天皇の国家構想と八幡神」の話が続いて、質疑も活発であった。翌02年には、ブチ教授から交流担当を引き継いだジョジアンヌ・マス教授が学生を引率して来学し、「モンペリエ大の医学部に残る写本」についての講演で貴重な中世の写本音楽を紹介してくれた。音楽学が専門のマス教授の話は新鮮で、学生たちにも好評であった。

双方の学生にとって非常に有り難いのは、語学力を補うための語学学習を互いに無料にしたことである。これはマス教授の尽力のおかげだった。先方には外国語としてのフランス語を教える付属コースがあり、本学には留学生の日

本語コースとしての別科があるので、互いに好都合のシステムが出来上がった。普通の大学間交流は、こうしたシステムに恵まれないため、留学に必要な語学力の不足を埋めることは難しいのが通例である。

この語学学習システムのおかげで、本学の学生もあちらで正規の大学院課程に登録することができ、単位修得と博士課程前期の論文作成に取り組んでいる。

05年からは教授の交換もしようではないかということになり、皮切りに同年3月、井上が先方の院生たちに「日本の伝統芸能とフランス中世の文学」の講義をした。5月、ジェラルド・シアリー教授が来て、「フランス、ヨーロッパにおける日本文学の受容」について講義した。日本語の講義ももっていた方なので通訳なしであったが、やはり通訳を付ければよかったと反省した。

06年からは飯沼教授が3月から4月にかけて出張し、「日本中世の女性たち」を講義した。5月、フランソワーズ・ロバン教授がこちらで「フランス中世のロマン、ゴシック建築」の講義をした。前年の反省から、井上がほとんど全ての講義の通訳を務めたが、素晴らしい講義であり、疲れたものの通訳のしがいがあった。今年は3月に山本教授が先方で「日本のサンクレチスムとガロ、ロマン期の皇帝礼拝」を講義した。10月にはもう一度マス教授が訪れて「1920年代のオペラ、バレエ」について講義することになっている。

このようにきちんと教員の交流が行われている例は珍しい。これは、モンペリエ第3大学の対応がいかに素晴らしいかということであり、こちらの受け容れがきちんとしていているという証拠であろう。これからも末永く続いて欲しい交流である。



モンペリエ大の大学院ゼミ風景

Impressions of Beppu

by the Winchester University exchange students

As we emerged on deck at dawn on the overnight ferry from Osaka, our first impression of Beppu was the steam rising from the hot springs and drifting up towards the mountains which form such a dramatic backdrop to the town. It all looked so peaceful, hard to imagine that below the surface, it was red hot volcanic magma that was creating this mysterious picture. We were to be reminded of that after a few weeks, when the tremors began. But that first morning we experienced not just the welcome of the hot springs and mountains but the warmth and hospitality of the Beppu people. At still only half past six in the morning, Ueda-sensei and Professor Griffiths had kindly come to meet us, take us to breakfast and escort us to the Kokusai Koryu Kaikan.

Our accommodation could not have been better. For us to, quite literally, be upstairs from the train station was a fantastic surprise, and has proved extremely handy for traveling around the region. We were equally delighted to discover that Beppu Daigaku was only a short walk up the hill from the station (although, we weren't too sad when, after getting internet connection in our kaikan, we no longer had to carry our laptops up

the hill each day). We were impressed by the University campus, in particular the new Media Centre, which became our second home for the first couple of months. We were fortunate to have a week to get settled in before university started, and got so used to having the Media Centre for ourselves that it came as quite a shock when all the students arrived at the beginning of term. However, it was great to see the fourth year 'Winchester Returnees' again and catch up all their news.

Little did we know then how many friends we would come to make during our stay here. Thanks to some particularly kind people we have enjoyed Blossom picnics, seen Beppu from the heights of Mount Tsurumi, marveled at the carved Buddhas in Usuki, been amazed at the bubbling volcano at Aso, been caught on camera by a local TV station at the Kitsuki matsuri, planted rice in a paddy field and been taken to the Oita 'Big Eye' football stadium to cheer on the Oita Trinita (unfortunately, they lost).

One of the things we have enjoyed most is the simple pleasure of discovering the little bars and restaurants hidden around Beppu, offering a tantalizing array of local dishes.

Our particular favourite has been the Okonomiyaki place on Beppu daigaku dori. Another thing we will not forget in a hurry are the onsen and sand baths we have taken with friends. Indeed, we found that relaxing in a hot and steamy bath was the perfect way to conduct EFL (English as a foreign language) classes.

Assisting with Professor Griffiths' and Yamano-sensei's English classes has been one of the highlights of our trip. All of us have been touched by the energy and enthusiasm that many students bring to the classes. Their eagerness to learn English has been truly inspirational, and has naturally led us to develop and tailor our teaching over the weeks. From homework help in the



明豊で教育実習中のハチソンさん

evenings at the kaikan, to one student's guest appearance rapping on a music album, we hope that in return we have brought English to life for some students. The insights we have got into Japanese society and culture from attending events such as the Sports Days and the Korean Girls School visit at Meiho and Myojo Schools have been invaluable. We feel privileged to have been invited to take part in all these events.

Our time in Beppu has been very special for each of us. Not only will the experience of the earthquakes stay with us for a long time, but so too will the memories of all our adventures and studies. The English professors and EFL students are truly excellent ambassadors for Beppu University and deserve great thanks from all of us.

英文科の単位認定留学校として提携している英国の Winchester University から 5 人の留学生在が 07 年 3 月に到着。国際交流会館で生活しつつ、英文科の Griffiths 教授の下で外国語としての英語教授法を学び、明豊中・高校で英国の教員資格取得に必要な教育実習も行った。日本は初めての人ばかり。7 月の帰国に際して、そのうちの Jo Hutchison さん（写真右）に滞在印象記を寄せてもらった。

家庭的雰囲気の魅力



吹奏楽の舞台にもなる中庭

「家庭的なところがよい」 多くの学生が本学の特質をそう見ている。4年制の全学科の新入生から4年生まで、07年度前期開講時のオリエンテーションや成績配布に出席した全員に「別府大学の良さはどこにあると思うか」について、無記名の自由記述で答えてもらった結果である。「親身で接してくれる」「アット・ホームな感じ」「溶け込み易い」。そんな回答が多かった。

同時に浮かび上がったのは、「別大は日本一小さい」と思っている学生が全体の2割ほどあることだ。日本一とまでは思わないまでも、キャンパスの「狭さ」を指摘する意見は5割を超えた。

ただ、「よさは狭さ」というように、プラスの評価をしているのが特徴だ。オープンキャンパスで見たときに「キャンパスが狭そう、と思ったけれど、入ってみたら施設はみんな揃っているし、何も困ることはなかった」「狭いから移動が楽」「知っている人に出会いやすい」「小さいが、そのために知り合いが増える。すごくいいことだと思う」「他学科の人ともなじみやすい」といった意見が多数を占めた。

アンケートに見る別大生意識

【実は小さくない】

別府大学は決してミニではない。キャンパス規模でも校舎規模でも学生数でも、そして財政規模でも。朝日新聞社の大学ガイド『大学ランキング2007年版』によると、学生1人当たりの校舎面積は23.6平方メートルで、全国723大学の中で上位30%に入るA級の判定を受けている。1人当たり面積が9.5平方メートルという大学が大都市部だけでなく、この九州地方にもあるのを見れば、恵まれていることが分かる。

ついでに言えば、常勤教員1人当たりの学生数は28.3人。安倍首相の母校の成蹊大学が43.6人で下位30%のC級とされているのとは比べ、はるかに豊かだ。

もっとも、このことはほとんどの学生が実感しているようで、「良さ」の答えとして「先生と学生が身近な関係にある」「先生に気兼ねなく質問できる」「先生たちが親身になってくれる」「話し易い先生が多い」「先生が顔を覚えてくれる」といった感想が寄せられている。「この大学の先生は一人一人のことを考えてくれます」という留学生の回答もあった。むしろ、自分たちが教員を十分に活用していないという見方があるのは注目される。「やる気があれば先生が助けてくれる」「やる気がないと損」「やる気のある学生はそんなに多くないので、やる気を出せばどんどん伸びていける」などである。

【後輩に紹介したいのは】

後輩に紹介したいこととしては「教室から見える景色」「晴れた日の見晴らしの素晴らしさ」「市内なのに自然が

多い。環境のよさは誰もが感じているようだ。他方、食や住に対する関心も強く、「学食がおいしくて安い」「学内にジョイQがある」「ファンビレッジが楽しい」「中庭の桜が美しい」「中庭のユニコーンが不思議」「トイレがきれい」「他の都市より暮らしやすい」「近所の人たちが優しい」「アパートの風呂が温泉」「1人で適度に楽な暮らしができる」「周辺に学生がいっぱい住んでいるので安心できる」などがあつた。

学業に関しては、「講義内容。好きな者にはたまらない」「教授の人間力が伝わる（いずれも芸文）」「留学生に分からないところを何度でも教えてくれて感動する（国文）」「自由な学風と細やかな指導（英文）」「歴史だけではなくて社会について学べる（史学）」「学内の付属博物館で実習できる（文財）」「多種多様な講義と個性豊かな先生（人間）」「講義をまじめに聞く人が多い（食物）」といった具合だ。

「偏差値では分からないほど授業や資格課程がすごく充実している」「他の大学に負けないほど機材が整っていることはもっと知られてよい」「やっていることは国立大学に負けません」と、多くの学科で真剣な答えが返ってきた。

【選んだ理由】

本学を選んだ理由を書いてもらったところ、書道の教員免許を取るため、管理栄養士の国家試験を受けたいから、など、将来の希望に添って選択した人が半数近くにのぼる。入試科目に不得手なものがなかったから、指定校推薦があつたから、高校の先生に勧められたから、家

業に役立つから、親の母校だから、という答えも散見された。「オープンキャンパスのときの講義が熱く、素晴らしいと思った」「オープンキャンパスで実験がおもしろかった」「ネット検索で自分の欲しい資格、授業科目などの条件に1校だけ当てはまったから」というのは、新しい傾向として大切に受け止めたい。

昨今の経済状況からか、「家から通える範囲で選んだ」という人がかなりの数にのぼつた。同時に「私学とは思えない学費の安さ」が進学機会につながつた、という人が少なからずいた。

数点、「成り行きで入つた」「よいところは見つからない」という答えがある。いずれも当初の志望校入試に失敗した人たちだ。わだかまりを抱えたままで大学生活を充実させられずにいるとしたらもったいない。「やる気」を取り戻して欲しい。



雨の日の登校風景

キャンパス探訪 「お邪魔しま～す」

地理学研究室



中山准教授（右端）の講評に耳を傾ける

午後4時半、書棚にたくさんの図書が並ぶ33号館の一室に、2人、3人と室員たちがやってきた。奥の方から、2001年の創室以来のメンバーで、博士後期課程を経て今春から本学非常勤講師を務める大山琢央先生が顔を出す。10人ほどが集まったころ、顧問の中山昭則先生（准教授）が鞆を抱えて現われた。今日は個別研究の中間発表の日だという。

皆がやや緊張の面持ちで四角い大テーブルを囲んだ。史学科3年の男子学生が、明治期の鉄道敷設に関して、寺社や墓地、城郭と線路との位置関係を広島県福山市に見る研究の進捗状況を報告した。寺社などは、用地買収が難しい典型とされ、鉄道は迂回して敷設されることが多かった、と言われている。それは本当か、との問題意識で取り組んでいる。

「現在の山陽本線は福山城の前を横切っているが、最初はどうかだったのか。夏休みに現地に行って、敷設当時の地図を探してきたい。敷設前後の都市空間の変化も考察していききたい。そう締めくくった発表者に、中山先

生の声上がる。「問題と、それを検証する場所を選んだのは進歩だ。福山市役所か法務局に行って、明治時代の地籍図が手に入れば面白い。卒論で取り組んでお釣りが来るくらいになるだろう。都市計画関係の専門誌を注意して見ていると、何か出て来るかもしれないよ。」

「他との比較はしないの？」と室員から問いが出る。「まず福山を調べてからでないと...」という答えに、後方でじっと聞いていた大山先生が「いいじゃないですか。がんばって下さい。」

次は文化財学科2年の女子学生2人による共同研究で、杵築市の町並み保存を課題にしている。重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けようとする運動が、道路拡張を求める意見とぶつかり合っとうまくいかなかったのは何故か。できれば夏休み中に関係者の聞き取り調査をしたい、という話に、中山先生は「保存か、生活か、という問題だ。20年以上前のことだから、市役所で直接担当した人たちももう退職しているかも知れない。商店街の利害も絡むし、厳しいかも。昔の対立軸を迎えるのではなくて、過去の対立を乗り越えて今どうなっているか、という方に焦点を置いてはどうだろう」。既に卒論・修論で過去の経緯を取り上げた上級生がいることから、「新しい提起を」と注文がついた。

この研究室では「キーワード演習」という独特の試練がある。大山先生が口頭である言葉を言い、それを聞き取って調べてくる。報告の中に、必ずなくてはならないキーワードが入っているかどうかが問われる。この日は文化財学科4年の1人が報告する番だった。口頭で言われていた言葉は「日田金」。耳慣れない言葉に「初めは日田ガニと聞こえて、かにのことかと思った」と笑わせつつ、天領の掛け屋が九州一円の金融業者になった過程

を報告し、豆田町の広瀬家などに触れた。

「キーワードは豆田町と天領。レジュメに天領を書いていなかったが、口頭で言ったのでよしとしよう」と大山先生の判定が下って、まずは合格点となった。

続いて、1年女子学生から別府の観光開発と油屋熊八についての発表があったが、ここでは大山先生は厳しかった。発表者が小説を引用したことに「それはフィクションだ。小説を使っているというのは、この発表は信用できないということだよ」とたしなめた。中山先生も「熊八さんだけにとらわれないように。利害の偏りのないところで熊八について書かれた論考をいくつか見てご覧なさい。小説の波乱の人生に流されては研究にならないから。まとめが感想になってしまわないように勉強してください。」

5限目が終わってやってくる室員もいる。こうしてかれこれ夜7時まで、中間発表と質疑、講評が続いた。

毎年秋にはフィールド・ワークがある。一昨年は鉄輪温泉の現況調査で地獄組合の聞き取りや、蒸し湯利用者のアンケート調査をした。昨年は高知県に出かけて合宿し、橋原町神在居地区の棚田オーナー制を点検して「グリーン・ツーリズムの展開と地域社会の対応」の共同研究をまとめあげた。聞き取り調査は現地の人々に受け容れられることが必要だ。聞きたいことだけを聞く、という態度では成り立ちにくい。見知らぬ自分たちをどうしたら理解してもらえるか。自問自答しつつの経験が、人間的成長につながっていく。

毎年3月に刊行している『別府大学地理学研究室研究年報』は今年、第5号を数えた。顧問の指導の下で、製本以外は全て自分たちで作り上げる。毎年、期末試験明けの2月上旬は仕上げの作業で大忙しという。製本され

たものを手に取ったときの達成感と充実感、室員たちの得難い経験になっている。

研究は発表するか、論文として公表して初めて成果となる、と中山先生は説く。『年報』はその舞台だが、他に年2回の発表会がある。室員たちにとって、顧問の研究室は日常的なキャンパスライフの拠点でもある。そこに集まっては、先輩・同級生・後輩と語らう。そうした絆のOB会もできていて、33人の会員中9人が大学院に進んだ。大山先生はその一人である。佐伯市、熊本県宇城市、大分県警などの正職員として働く人、和紙の紙漉職人として活躍している人。先輩たちの進路は多彩だ。隔年のOB会総会は、この11月に別府市で開く。

地理学を通じて知的探求心を養い、調査・論考の力を鍛えて将来に備える。そんな活動に、15人の現役室員たちの喜びがあるようだ。それにしても、顧問の熱意と吸引力が強ければこそその活動の持続である。室員の間には「中山先生の講義を受けて地理学研究室に惹かれた」という声が多い。



棚田でフィールド・ワーク

大分の魅力に目を向ける

辻野 功・食物栄養科学部教授に聞く

法学（日本国憲法）の講義の傍ら、テレビニュースのコメントーター、特別番組の総合解説、新聞の時局評論と、エネルギーに活動を重ねている。「大分」を広め、今夏は放送大学大分学習センターの集中講義でその魅力を説いた。

多彩なご活躍ですが、もともとのご専門はどのような領域でしょう。

「明治社会思想史です。そもそも私は60年安保で学生運動をやっていたのです。私が学んだ同志社大学は東大、京大、早稲田と並んで運動が盛んで、唐牛健太郎が全学連委員長の時に京都府学連の副委員長が私でした。あのころは日本中の学生が毎日のようにデモをやっていましたが、私は途中ひと月だけ休憩して、ハロルド・ラスキの原書を一冊読んで英語の力をつけ、大学院を受けました。デモばかりやっていたら受からんですからね」

明治社会思想史は大学院で専攻されたわけですね。

「学生運動の体験がありましたから、日本の社会主義運動を根源から勉強してみようと思ったのです。なぜ挫折ばかりするようになったのか、明治の運動から始めました。岩波書店が創業80周年記念に出版した『岩波講座・日本通史』に平民社のことを書きました。三一書房が73年に出した『日本社会主義運動史論』にも書いています。コミンテルンの極東勤労者大会の議事録を入手し全訳して、日本共産党の結成をコミンテルンとの関連においてとらえた論文です」

「そんなことを黙々とやっていた時代がずっとありましたね。京大人文科学研究所の共同研究班にも属していました。私は明治社会思想史の分野で結構業績を残してきたのです」

異文化を通じて見る日本ということに関心を寄せた

のは何か転機があったのですか。

「同志社大学の非常勤講師のときに先輩に頼まれて欧州視察の同行講師役を務めたのです。海外旅行解禁2年後の1966年、ジャカルタ経由でガルダ航空を使ってアムステルダムに行き、そこからバスでパリ、ロンドンなどを回りました。ヨーロッパ学のメッカ、京大人文研の西洋部の先生方がヨーロッパの地域研究を課題に何班かに分かれて初めて欧州に行ったのが1967年で、私の場合はそれより1年早かったですよ。この旅行で知ったのは、どの都市でもエレベーターが旧式のままでいうことでした。乗り降りには金網のような扉を手で開け閉めすると、3階で降りようと思っても先客が5階で呼んでいると3階で止まってくれないとか、すべて日本より進んでいるはずと思いこんでいたのがそうではなかった。驚きでしたね」

「それが異文化体験というか、外から見ないと日本のことも分からんぞ、という初めての体験でした」

長年、イギリスでのホームステイを主宰してこられた。

「これは60年代の終わり、同志社大の恩師の縁で私が京都精華短大の創設に携わったのが発端です。私は教務の責任者でした。柳島彦作というすごい英語の先生がいて、これからは英語が使えなければ駄目だ、と学生たちに発破をかけた。そうしたら私の教え子でもあった一人の女子学生がその気になって、司書の資格を取って母校の図書館で2年間働き、お金を貯めてイギリスのブライトンに行きました。向こうでオー・ペアといって住み込みの家事手伝いみたいなことをやりながら語学学校へ通ったのです。彼女が英国人と結婚して定住し、我が家の子供たちを連れてきませんか、と誘ってくれた。その話が広がって、毎夏、30人くらいのホームステイの語学研修生を引率するようになりました」

すると、京都精華短大のカリキュラムの一環だったのですか。

「いや、ホームステイを主宰し始めたころは京都芸術短大に移っていました。いまの京都造形芸大です。学生運動をやっていたときに世話になった同志社大の総務部長がその理事で、短大創設のために招かれたのです。人事もカリキュラムも任されて、ほとんど私が一人でやりました。京都精華短大もそうでしたが、ここで芸術とか文学とかいろんな異分野の先生たちと交わることができたのは何より幸せでした。すんなり同志社に残れなくてよかったと思います。法学部に残っておれば、狭い世間のままで終わってでしょう。異分野の人たちと話すのは面白いですよ。刺激になるし、第一、新しい知識が増えます」

「ホームステイは口コミで広がりましたね。札幌から鹿児島まで全国から集まります。参加した最年少は小学校4年生、最年長は定年まぢかの先生でした。アレンジは現地の語学学校がしてくれるのですが、日本人同士が同じホームステイ先にならないように注意していました」

ご自身も体験されるわけですね。

「始めのころは相部屋でした。それがよかったですね。79年のことですが、イランの青年と2週間一緒に暮らしました。ちょうどイスラム革命のときで、その青年は一所懸命イランのラジオを聴いていました。続く2週間はレバノンの青年とでした。やはりイスラム教徒で、お祈りもラマダンもちゃんとやる。私にとっては大変な刺激でした」

都合1カ月というと、かなり長いホームステイですね。

「私は英語が得意ではないものだから、よその国からきた学生が私の学生たちに聞くのですね。お前たちのリーダーは教授なのか。英語で講義できるほど上手とは思えないが、一体何語で講義しているのか、というわけです。日本語だ、というと、相手はびっくりするのですね。日本では自国語で教育が行われている、ということに彼らは驚くわけです。発展途上国では旧宗主国の言語で高等教育が行われていますから」

「人口の何%が日本人かと、想定外の質問も飛び出す。ほとんど全部が日本人だと答えると、また驚く。使われている言語はいくつあるか、と聞かれて、日本語だけだ、と



いうと、そんなコンフォーミズムはけしからんと怒るのがいる。いや、それこそが日本の急成長の秘密だという者もいる。そういうやりとりを繰り返すうちに、文化の相違だとか、そこからくる政治の対立だとかに目が向きました。正義と邪悪の対立ではなくて、正義と正義の対立なのです。だから、極端なことを言えば、世界の対立紛争は永遠に終わらない。発展史観ではない考え方をする人々が世界にはいっぱいいることを学んだのも大きかったと思います」

辻野先生と大分は切っても切れない関係です。

「京都時代に、引退したら大分で暮らすのが一番だと考えていました。出身は香川ですが、大分県の一村一品運動に興味を持って調べたときに、まだ一面識もなかった平松守彦知事に手紙を書いたら返信を頂いた。以来、親しくしています。大分学という呼称は私の発案ではなくて、平松さんの著書『地方からの発想』に一度だけ出てくるのです。豊後学というのが一般的だった。しかし中津は豊前ですからね。豊後学では失礼だ。大分学を広めたのは私です。そんな学問は成立しないと、よく言われたのですが、学者の学問とは違って、これは大分の魅力を見つけて広めるのが主眼です。大分で生まれ育った方が意外に気づかない大分のよさを、多面的に明らかにする学問だと私は言っているのです。そうすると地元は元気が出て喜んでくれる。よし、もっと調べてみよう、私も元気が出る。よい循環を繰り返しているのです」

学生に一言お願いします。

「そうですね。政治問題に意見を持つ学生になって欲しい」

進路情報センターから

3年次生対象の「就職オリエンテーション」開催

3年次生の就職（進学）に向けてキックオフとなる「就職オリエンテーション」を、6月23日（土）に開きました。

就職委員の先生方の呼びかけに加えて、学生の関心が強かったこともあり、例年より多い356人の参加が得られました。

新設されたメディア教育・研究センターの協力で、今回初めて500番と400番の2つの大教室をテレビ中継でつなぐことができました。

日本経済は拡大基調を確かにしているとは言うものの、地方経済はまだら模様で、就職状況も基本的に厳しいことに変わりはありません。3年次のうちに就職活動に取り組むことはますます大事になっています。

全体説明のあと、卒業生3人の体験談を聞きました。大分県立佐伯豊南高校教諭の久保修平さん（文化財学科卒）は、在学時から教職志望だったので受験準備が十分でなかったため、断念して教材会社に入ったのでした。

ところがその仕事が教育とはほど遠いことを知って辞め、一念発起して公務員受験専門学校に入学。睡眠・食事・通学以外の全ての時間を勉強に費やして一気に合格、採用となったのでした。「学生の時にもっと勉強しておくべきだった」という話に、多くの学生が神妙に聞き入っていました。

「翔葉」に勤務の八坂理子さん（食物栄養学科卒）は、管理栄養士の資格を活かして医療食の営業活動をしています。採用面接では、管理栄養士の国家試験合格の自信のほどを問われ、「自信があります」と即答したことを強く覚えている、ということでした。日頃から礼節に気を配っていたことも面接で役に立ったそうです。

挨拶や振る舞いは、付け焼き刃ではボロがでる、という後輩への忠告でした。

帆足病院の宗田昌幸さん（人間関係学科）は、精神保健福祉士（PSW）として精神科に勤務しています。内定の条件が、その国家試験に合格することだったため、しばらく緊張を迫られたとのことでした。職種を限定した就活であるため、精神科がある県内の全ての病院に電話を入れて求人との問い合わせをするなど積極的に動き、県外にも応募したそうです。3人の体験談は予定時間を超えましたが、話が具体的であるだけに、みな熱心に聞き入りました。

続いて、毎日コミュニケーションズ九州支社の土山勇さんの「就職活動への取り組みと社会動向」についての講演がありました。現在の新卒者の就職環境と活動状況を知ることから自分の活動を始めること。採用の早期化と長期化、即戦力を求める傾向など、近年の動向を知った上で、企業（会社）とは、働く（仕事をする）とはどういうことなのかを考えること。自己分析をして適職に結びつく方向に進むこと、などのアドバイスを受けました。今からできることとして 就活に専念できるよう、単位をきちんと取得していく 新聞を読む習慣を養って社会・経済問題に目を向けておく クラブ活動やアルバイトと学業を両立させる（自己分析や自己PRに有利な材料になる） インターネット、パソコンを活用する（企業はもちろん、公務員でも必須の要件）などが上がりました。

締めくくりに、本学が取り組んでいる就職支援策と今後のスケジュールについて、進路情報センターから説明がありました。

神宮に届いた手

「別府大学、神宮初出場」 この言葉を聞くために、これまで幾多の困難がありました。決して「強豪」と言われることのなかった私たちが、あの大舞台に立てるとは、思ってもみませんでした。目標としてはあったものの、現実の課題としてはそんなに甘くはなかったのです。

別府大学に入学し、硬式野球部の一員となって、私たちの新生活がスタートしました。不安と期待でいっぱい1年間でした。私は1年次より試合に出させてもらって、多くの経験を積ませてもらいました。仲間と互いに励まし合って磨き合ううち、やがて2年次になると、春の神宮予選で決勝戦に進出するチームにまでなっていました。

このチームには力がある。自信を持ってそう言えるチームでした。しかし、そこへ監督の交代問題が持ち上がるなど、チームの置かれた状況はにわかには厳しくなりました。選手と監督のコミュニケーションの不足がちなことや、選手たちのモチベーションの低下といったことなど、さまざまな問題が降りかかってきたのです。主将という立場の私は、みんなの言葉や意見を上に伝え、上の言葉をみんなに伝える役目を果たさなければなりませんでした。かなり悩んだこともありました。

しかし、そんなときに私を救ってくれたのは、やはり仲間のみなです。私は、野球というスポーツは本当に素晴らしいと思います。野球だけでなく、団体スポーツならどんなスポーツでもそうですが、チームのよし悪しを決めるのに必須のチームワークの大切さを、私は野球から教えてもらいました。

今年の夏は、たまたま私たちが神宮に行くことができましたが、来年はどうなるかわかりません。相手次第でこちらは出場できないかもしれません。誤解を恐れずに

別大硬式野球部主将・松井 崇純

言えば、私は神宮への勝敗、神宮での勝敗よりももっと大切なものを、この大学生活はもちろんのこと、これまでの野球人生の中で学びました。4年生はみんな、これからそれぞれに就職し、社会人になって進む道は異なりますが、別府大学で築いた多くの「仲間」と「思い出」は、一生、忘れません。

最後になりましたが、別府大学硬式野球部にかかわったすべての関係者の方々、後援して下さったの方々、神宮行きにご寄付を頂いたの方々、そして父母会のみなさま、大変お世話になりました。選手一同とともに、ここに篤く御礼申し上げます。有り難うございました。



和田正監督のもと、野球部は5月の九州地区選手権大会決勝戦で宮崎産業経済大を6 - 4で下して優勝。神宮球場の第56回全日本大学野球選手権大会に九州代表として臨んだ。6月13日、大会2日目の第4試合で北東北代表の八戸大学と対戦し、残念ながら1 - 2で惜敗した。東京ドームの会場には吹奏楽部や在学生、卒業生の応援団が詰めかけて、大いに「初出場」の意気が揚がった。

大学・短大だより

「生涯スポーツ」と「社会調査士」 人間関係学科の新たな取り組み

人間関係学科は、2000年度創設時から「社会学」「心理学」「教育学」の3コース制でしたが、来年度から「社会福祉」「心理」「教育・生涯スポーツ」「地域マネジメント」の4コース制に変わります。教育内容をより明確にし、現代の課題に一層応えるための改革です。

まず、従来の「社会学コース」の内容を、「社会福祉」と「地域マネジメント」に分け、明確にしました。とりわけ、「地域マネジメント」では、社会ニーズに応えるため創設された「社会調査士」の資格を取得できるのが特色です。経済活動はもとより、自治体運営でも「社会調査」はますます重要になっています。このコースでは、特に、NPOや自治体、地域経済を支えるエキスパートの養成を目指します。

「教育学コース」で力を入れてきた「生涯教育分野」で今日、スポーツの意義が強調されるようになったため、コース名を「教育・生涯スポーツ」に改めます。高齢者福祉の分野でも、「予防介護」でも、適度な筋力トレーニングなど、スポーツの意義が言われています。Jリーグはじめ、野球やバスケットなどでも、「地域に根ざしたプロ・スポーツ」が浸透してきました。

そこで「スポーツ社会学」では、大分トリニータや大分ヒート・デビルズなどの関係者を招き、その運営や地域との連携を実際に学び、コーチング、生涯教育、介護など、心理学や教育学、福祉の視点からも幅広く学習できるようにします。

社会福祉士、精神保健福祉士、認定心理士等を養成する「社会福祉」「心理」の両コースは、学科の中心として多くの卒業生を輩出し、「地域社会」を支える人を育ててきました。特に、福祉分野の「卒業生ネットワーク」では、年2回研修会を開き、地域福祉の課題解決に取り組んでいます。

「地域社会を支える」をモットーに、人間関係学科は前進します。

別府大学史学研究会大会・ アーカイブズフォーラム大分 2007

6月9日土曜日、別府大学3号館ホールで「別府大学史学研究会大会 アーカイブズフォーラム大分 2007」が開催されました。通算5回目となる今年は、大分県立中津南高校から佐藤雅彦氏と、埼玉県立文書館から太田富康氏（写真）を講師にお招きしました。会場には200人を越える学生と、社会人の方々が聴講に詰めかけました。

史学研究会大会の佐藤雅彦氏の講演は「高校教育の現場から」です。今問題となっている教員の評価システム、競争原理の導入、コスト削減、保護者や生徒との接し方の難しさなど、切実な具体例を交えてお話し頂きました。聴衆の学生たちは、現実の厳しさに驚きと感銘を受けていました。そのことは会場で行ったアンケート結果に表れています。いくつか紹介すると、「これからの教師の給料が数値目標を決めてどれだけ達成できたかで増減するといったことになるという話が印象に残りました」「現状維持は衰退への道、という言葉が数感的だった」「教職員評価システムにびっくりした。数値化って、目標を超える都度に苦しくなるんじゃないだろうか」などです。

フォーラムの太田富康氏の講演は「図書館とアーカイブズの過去と未来」です。戦前の図書館の普及もゆっくりであったこと、日本で最初の公文書館が図書館関係者によって作られたこと、欧米理論と日本の現場の2つの面についてなどを話して頂きました。聴衆のアンケートには、「文書館が自分の財産を守るための証明...（中略）...の手助けになるものだと知りませんでした。裁判所に例えて、普段は関わりたくないが、いざとなったら自分の権利などを守ってくれるものと言われて、なるほどと思いました」「この仕事こそが地域・県・国を支える礎だと知った」「実際に現役で活躍している方の話を聞いて、その仕事の内容、問題点など、リアリティーを感じ取ることができた」など、図書館業務への敬意と、文書館の未来への期待を抱いたことが窺われます。



《ときめき歌舞伎》のトークショー ミニ・オープンキャンパス兼ねて

メディアホールで、「ときめき歌舞伎」と題した歌舞伎の講演とトークショーを開きました。国文学科と芸術文化学科が大分県文化スポーツ振興財団と共催したもので、ミニ・オープンキャンパスを兼ねた催しでもありました。

当日は、暑さにめげず、高校生を含め、150人あまりの聴衆が集まりました。中には、日ごろはテレビや舞台の上でしか見られない講師の姿を生で見るのできる貴重な機会のために、少しでも近くに行きたいという気持ちから、1時間以上も前に来場した人もありました。それは、期待の大きさを物語っていたと言えるのかもしれない。

講演は、NHKのエグゼクティブアナウンサー・葛西聖司氏です。特に9月に大分で行われる歌舞伎公演の内容について詳しく話してくれました。演目の内容について歴史から説き起こし、わかりやすく解説され、さらには、衣装についてまで話が及びました。華やかな舞台全体はもとより、こうした細かい点を知っていればこそ、舞台のおもしろさが増すということを教えて頂いたのは、学生にとっても有益でした。葛西氏の巧みな話術により、今まで遠いものと思われた歌舞伎の世界が、身近に迫ってくるように感じられたことでしょう。

トークショーは、葛西氏と、歌舞伎俳優・中村時蔵氏とで行われました。葛西氏の質問に時蔵氏が答えるという形でしたが、時蔵氏の舞台姿の映像を見ながらのショーであったため、目の前にいる時蔵氏だけでなく、演じている役柄も重なり、お二人の会話は、聴衆を別世界へと誘うものとなりました。時蔵氏の言葉には、伝統芸能を演じる方の重みがあり、葛西氏の言う「生(なま)時蔵」ご本人を通して、伝統芸能というものを理解することができたように思います。

お二人の醸し出す雰囲気によって、現代的なホールが歴史的な歌舞伎の世界へと変貌したかのような錯覚にとられたひとときでした。



絵本研究会の活動 短期大学部保育科

絵本研究会は大分キャンパスに保育科が新設されると同時に誕生した、まだ歴史の浅い研究会です。初年度は6人でしたが、4年目を迎えた今年度は、1年生18人、2年生18人の計36人になりました。

とにかく絵本が大好きで、絵本の楽しさ、面白さを子どもたちにも感じてほしいと願っている学生たちの集まりです。ドキドキ、ワクワクして心が躍る、心が温くなる、そんな絵本をたくさん子どもたちに読み聞かせてあげたいと考えています。季節や子どもの発達に応じた本の選び方や、子ども心に響く読み方などを、みんなでたくさんの絵本を読み合う中で学んでいます。

今年度は5月から7月にかけて5回、キャンパス近隣の幼稚園や保育園に読み聞かせに行きました。子どもたちの前で読むのは思った以上に緊張します。訪問前に何度も練習をしていくのですが、子どもたちからは予想もしないような反応が返ってくることもあり、戸惑うこともしばしばあります。臨機応変の対応ができるように、これからも実践を通して学んでいきたいと思えます。

大分校のオープンキャンパスでは研究会の発表をしますので、現在はそれに向けての練習をしています。夏休み中は、2年生は実習があるので1年生中心ですが、保育園を訪問し、実践を通してさらに技術を磨いていきたいと考えているところです。

将来、保育園や幼稚園に就職したときに毎日絵本を読み聞かせてあげ、子どもたちの想像力や豊かな心を育てていきたいと夢見ながら活動している絵本研究会です。



明豊だより

- 交流の輪を広げて、心の架け橋へ - 鶴山女子中学・高校、治平高級中学

韓国の鶴山女子中学・高等学校とは、創立の翌年4月に交流協定をして8日目になります。毎年、夏休みの研修として300人から40人の団体が来校し、合同宿泊研修としてインターアクト部の生徒を中心に、ダンス、ゲームと楽しく過ごしてきました。04年度からは修学旅行団となり、中学・高校とともに30人から400人近くの生徒が来校して体育館で中学、高校に分かれて文化交流をするようになりました。

5周年事業のときも、快く協力していただけました。伝統舞踊、サムルノリなど観客を魅了する出し物ばかりでした。

今年度も中学が5月17日、高校が5月24日と本校を訪問してくれました。美しい伝統舞踊、現代的なヒップホップダンスと圧倒されるばかりでした。本校は吹奏楽部の演奏、合唱部の美しいハーモニーで歓迎しました。鶴山女子高校は、明豊の校歌を天使のようなハーモニーで聞かせ、会場を温かいムードで包んでくれました。

このような文化交流のあと、個人交流でいくつかのグループに分かれ、言葉は通じませんが、ボディランゲージと若さで和やかなふれあいを見ることができました。

生徒たちだけには終わらず、鶴山女子との交流は教員同士の交流も深く、毎年の再会を楽しみにしています。

同じように、台湾の治平高級中学と昨年度から交流事業が行われるようになり、本校から台湾への修学旅行も生徒たちは楽しみにしています。さらなる交流を深め心の交流が一層広がることが期待されています。



甲斐(明豊高校卓球部・3年)世界一! ~ワールドジュニア・フランス大会~

卓球のワールドジュニアサーキット・フランス大会(6月6日~10日・フランス・レンヌ)で明豊高校卓球部3年の甲斐義和選手が快挙。男子ダブルス(御内健太郎・上宮高校・大阪とのペア)で初の国際大会優勝を果たしました。

同大会はヨーロッパ、アジアなど19カ国の18歳以下の選手が集う未来のオリンピック大会です。甲斐は中学時代より日本のジュニアナショナルチーム(18歳以下のオリンピック候補)の一員として数々の世界大会に参加、参戦を続けています。

一昨年のスウェーデンオープンで個人3位入賞、昨年のオーストラリア大会で2位と着実に実力を付けました。世界の頂点を目指し、そして、自分の小さいころからの「オリンピック選手になる」という夢を実現するため、日々厳しい練習に耐えています。

甲斐を一言で表現するなら「努力の人」--まさにそれです。とにかく常に自分の課題を見つけては、練習に練習を積んでいます。

また、チームの中にあっても“けん引車”的存在で、後輩にとっては最も良い手本です。

大分市出身で小学校3年より卓球を始め、明豊中学そして明豊高校と6年間、約1時間の電車通学を続けてきました。朝5時起き、夜は10時半帰宅と文字どおりの卓球漬けの毎日です。

自分の“夢”の実現のため、ひたすら努力に努力を重ねる甲斐選手。“夢の実現の日”--その日は近いと確信しています。



地域社会で仕事の厳しさを体験 明豊中学3年53人

6月6～8日の3日間、明豊中学校3年生53人が2～3人のグループに分かれ、別府市・大分市・日出町の事業所21カ所に「職場体験学習」でお世話になりました。

職種は、洋菓子店・書店・旅館・動物病院・レジャー施設・ホームセンター・スーパー・バス・小学校・幼稚園・ドラッグストア・コンビニ・消防署・伝統工芸など多岐にわたり、3日間貴重な体験をさせていただきました。

まず、自分の体験したい仕事の希望をとることから始まりました。そして、実習1週間前には電話と訪問



亀の井バス

で事前にあいさつをしました。練習のおかげが電話の応答、あいさつなど、とても立派にできました。

そんな中でよいよ初日を迎えました。みんなの緊張が伝わってきた初日でした。今日から3日間は仕事、そう考えるだけでも、緊張で落ち着かなかったと思います。2日、3日と過ぎるうちに、仕事の要領を覚え、立派にこなしている姿に頼もしさを感じました。

仕事の厳しさを体験し、ずっと成長して帰ってきたようで、3日間とてもよい体験学習になりました。



別府市消防本部

キャリア教育に特色 中高一貫の特性活かす

中学は、中高一貫の特性を生かしながら、国公立私立難関大学を目指す特別編成クラスとスポーツや文化活動を通し個性を伸ばすチャレンジクラスを設置し、英数国の授業時間の増と少人数教育を特徴としています。

高等学校は、普通科特別編成クラス（国公立私立難関大学志望）と選択制・単位制クラス（個性を伸ばし興味関心に応じて科目を選択）、5年一貫の看護科から成っています。

キャリア教育の一環として、中学校の職場体験や高校の進路学習時における別府大学教授の出前講義、1日大生体験、幼稚園での保育体験等は、他校にない特色です。

06年度の進学・進路状況は - -

別府大学 文学部(史学科4、人間関係学科14、国文学科2、芸術文化学科1、英文学科2)、食物栄養科学部(食物栄養学科3、食物バイオ学科2)、短期大学部(初等教育科5、地域総合科学科3、保育科3、食物栄養科1)

明豊高等学校看護専攻科(30)

国公立大学 横浜国立大学(工)、神戸大学(経)、広島大学(経)、山口大学(工)、熊本大学(工2)、佐賀大学(経)、九州工業大学(工2、情工)、長崎大学(工)、大分大学(工3)、琉球大学(農)、奈良県立大学(地域)、神戸市立大学(外)、尾道大学(経情)、下関市立大学(経)、北九州大学(法、外)、熊本県立大学(経営)、職業能力総合大学校(通信、精密、電子、情2)

私立大学 上智大学(文)、聖心女子大学(文)、立教大学(情)、東京工科大学(メディア)、明治学院大学(文)、東京理科大学

(理工、基工)、大東文化大学(文)、工学院大学(情)、京都橘大学(文)、芝浦工業大学(2)、日本体育大学(体)、日本女子体育大学(体)、駒沢大学(文)、東京電機大学(工)、名古屋芸術大学(音響)、鈴鹿国際大学(国際)、立命館大学(経3、情工3、理工3)、同志社大学(経2)、京都造形大学(環境デザイン)、大阪産業大学(人間2、経営)、大阪商業大学(商)、奈良大学(文2)、近畿大学(産理3、工)、武庫川女子大学(教)、岡山商科大学(法)、広島工業大学、山口東京理科大学(基工)、九州国際大学(法、経)、第一福祉大学(3)、九州産業大学(経済4、経営1、工1)、福岡大学(経、法2、工5、人文1)、九州共立大学(工)、福岡工業大学(社環)、福岡女学院大学(人文)、久留米工業大学、長崎国際大学(薬)、日本文理大学(工、経)、熊本学園大学(外)、崇城大学(生命)、志学館大学(人)、APU(2) 他

海外大学 釜山大学(法)

短期大学 大分県立芸術文化短期大学(国2、情)、上智短期大学
専門学校 文化服装学院、日産京都、佐賀看護、伊万里看護、唐津看護、別府看護、別府医療センター附属中央看護、ホンダテクニカルカレッジ、明星ビューティ、明日香美容文化、久留米工業技術、ハリウッドワールド美容、大分県視能訓練師 他

就職 日出町農協、奈良県葛城市消防署、豊洋電設、自衛隊、日通、エスエイ検査、木村コーポレーション、福祉施設らさぎ、佐川急便、大阪ビル管理 他

看護専攻科就職 大分大学医学部、大分県立病院、慈恵医大、虎ノ門病院、順天堂大学 他

新任者紹介

- 1 所属
- 2 専門分野
- 3 出身校(大学・大学院など)
- 4 趣味
- 5 愛読書「この一冊」
- 6 別府大学の印象・学生に一言

田島 松二(たじま まつじ)



- 1 文学部英文学科
- 2 英語学(英語史)、中世英語英文学
- 3 九州大学文学部、オタワ大学大学院博士課程修了(英文学専攻)
- 4 登山
- 5 趣味と実益を兼ねて内外の小説類を乱読しています。
- 6 何よりも国語力をつけることです。そのためにたくさん本を読んでください。

森井 秀昭(もりい ひであき)



- 1 食物栄養科学部食物栄養学科
- 2 生化学
- 3 長崎大学水産学部
- 4 登山、テニス、バドミントン
- 5 『がばいばあちゃん』島田洋七著 貧しくも心豊かに過ごした「ばあちゃん」の人生訓。今話題のヒット作品です。

- 6 キャンパス内の方は皆親切で、心温かい感じがしました。学生諸君は、よく遊びよく学んでほしいと思います。

古川 謙介(ふるかわ けんすけ)



- 1 食物栄養科学部食物バイオ学科
- 2 応用微生物学(環境バイオテクノロジー)
- 3 九州大学農学部卒業、同農学研究科農芸化学専攻修士課程中退
- 4 テニス、囲碁、庭の草むしり
- 5 『科学者たちの自由な楽園』理化学研究所を舞台にした科学者たちのサクセスストーリー
- 6 印象:文系の大学として、長い歴史と実績、理系分野における新展開。一言:学生時代にしかできないこと、時間を意識して人生を設計してください。

高 友希子(たか ゆきこ)



- 1 文学部史学科
- 2 法制史、法律学
- 3 九州大学大学院法学研究科博士課程
- 4 ヨガ、フルーツ、旅行
- 5 『夜と霧』ヴィクトール・E・フランクル著 人間とは何か、社会とは何か、生きることの意味を改めて考えさせられます。
- 6 自らの頭で考え、自分の行動・決定

に責任をもてる人間になってください。

柴田 泰博(しばた やすひろ)



- 1 文学部人間関係学科
- 2 社会福祉援助技術論、医療ソーシャルワーカー論
- 3 日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科
- 4 囲碁、スポーツ観戦
- 5 『未知との遭遇 - 癒しとしての面接』奥川幸子著 「面接とは課題を達成すること」である。
- 6 中庭に咲いている桜の花を見てうっとり。学生諸君!花のある人間になれ!

今井 航(いまい わたる)



- 1 教職課程
- 2 教育学、教育史
- 3 広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻
- 4 読書、おいしいコーヒーやお茶を探すこと
- 5 愛読書は特にありません。でも、常に本を読むように心がけています。最近では、明治時代や大正時代、さらには戦時中に日本にやってきた外国人の見聞記を読んでいます。
- 6 東に振り向けば海が眺められ、西に振り向けば雄大な山を望むことが

できる素晴らしい環境にある大学であり、学生からは何かしらの大きさを感じています。別府大学をいっそう発展させるために、学生の皆さんとともにそのための力をつけていきたいと思います。

高濱 正文(たかはま まさふみ)



- 1 初等教育科
- 2 保育学
- 3 鳴門教育大学大学院
- 4 キャンプ、魚釣り、子どもと遊ぶこと
- 5 『育児の原理』内藤寿七郎著
タイトルは堅いのですが、育児のことがよくわかる一冊です。保育者を目指す人はもちろんですが、親になった時にも必ず役に立つ育児のヒントが満載です。
- 6 これから一緒に子どものすばらしさ、保育の面白さを味わっていきましょう。教科書には載っていない保育の魔法(裏技)を教えますよ。

安部 義和(あべ よしかず)



- 1 大学事務局入試対策部
- 2 地理学、教育学
- 3 大分大学教育学部
- 4 囲碁、バスケットボール
- 5 『風土』和辻哲郎著
日本人的な文化の再認識と日本人としての生き方が今ほど大切な時はないと思う。その土地や風土に適應した生き方がグローバリズムに

対する心の支えではないだろうか。

- 6 しっかり勉強して、心と身体を鍛え、真の勇気をもった若者をめざしてほしい。

波多野静夫(はたの しずお)



- 1 大学事務局メディア教育・研究センター
- 2 コンピュータ関連
- 3 長崎総合科学大学
- 4 ゴルフ、米作り
- 5 『人間というもの』『人間とは何か』組織から社会へ』『夢と生きがい』『日本と日本人』司馬遼太郎著
特に学生さんに読んでもらえたら幸せです。内容的には難しくなく、自分を見つめ直すこともできると思います。是非、読書されることをおすすめします。
- 6 活気に満ちた大学であると感じました。有意義な学生生活を送ってください。

足立 貴一(あだち けいち)



- 1 大学事務局メディア教育・研究センター
- 3 別府大学文学部史学科
- 4 人間観察
- 5 『レヴオリュション NO.3』金城一紀著
人生において何が大切か教えてくれる本。
- 6 時間はみなさんに平等です。限られ

た時間を有意義に過ごしましょう。

木島 あゆみ(きじま あゆみ)



- 1 大学事務局食物栄養科学部実験助手
- 3 別府大学食物栄養学部
- 4 旅行、スポーツ
- 5 『ツキを呼ぶ魔法の言葉』五日市剛著
言葉ひとつで、日々の生活が変わることを感じる。
- 6 一日を大切に、日々笑顔で生活を送ってください。

宇都宮仁美(うつのみや ひとみ)



- 1 大学事務局食物栄養科学部実験助手
- 3 別府大学食物栄養学部
- 4 料理、ドライブ
- 5 『ツキを呼ぶ魔法の言葉』五日市剛著
「ありがとう」感謝します「ツイてる！」この言葉はとても良い言葉です。この本で、言葉の大切さを実感し、自分にとっても良い影響を与えてくれました。
- 6 何事にもチャレンジして、悔いの残らない楽しい学生生活を送ってください。

平成19年度学生数

学生・生徒・園児の在籍数

平成19年5月1日現在

学校	学 科 等		現 員		1 年		2 年		3 年		4 年		5 年	6 年	備 考	
			内留学生		内留学生		内留学生		内留学生							
大 学 院	文 学 研 究 科	歴史学専攻博士前期課程	16	1	2	0	14	1								
		歴史学専攻博士後期課程	5	2	2	1	2	1	1	0						
		日本語日本文学専攻博士前期課程	11	11	5	5	6	6								
		日本語日本文学専攻博士後期課程	18	13	6	4	5	2	7	7						
		文化財学専攻博士前期課程	27	3	16	1	11	2								
		文化財学専攻博士後期課程	3	0	2	0	1	0	0	0						
		臨床心理学専攻修士課程	22	2	9	1	13	1								
		食物栄養科学研究科食物栄養学専攻修士課程	4	0	2	0	2	0								
	計	106	32	44	12	54	13	8	7							
大 学	文 学 部	国文学科	378	157	57	14	82	34	87	30	152	79				
		英文学科	142	26	29	11	31	3	38	4	44	8				
		史学科	555	5	135	0	144	1	123	0	153	4				
		芸術文化学科	278	67	44	8	56	7	86	18	92	34				平成12年度名称変更
		文化財学科	313	29	39	5	80	11	67	3	127	10				
		人間関係学科	398	10	85	2	85	1	102	4	126	3				
		小 計	2,064	294	389	40	478	57	503	59	694	138				
	食物栄養科学部	食物栄養学科	301	1	75	0	67	0	72	0	87	1				平成14年度設置
		食物バイオ学科	55	1	35	1	20	0								平成18年度設置
		小 計	356	2	110	1	87	0	72	0	87	1				
	計	2,420	296	499	41	565	57	575	59	781	139					
	別科日本語課程	56	56	56	56											
短 期 大 学 部	食物栄養科	103	0	55	0	48	0									
	初等教育科	325	0	160	0	165	0									
	地域総合科学科	252	151	94	43	158	108								平成16年度設置	
	保育科	145	1	69	0	76	1								平成16年度設置	
		計	825	152	378	43	447	109								
	専攻科福祉専攻	24	0	24												
	専攻科初等教育専攻	38	0	21		17										
	計	62	0	45		17										
大学院・大学・短大合計			3,469	536	1,022	152	1,083	179	583	66	781	139				
明 豊 高 校	全日制課程 普通科	436	1	146		141		149	1							
	専攻科看護科	152		32		22		40		33		25			平成14年度名称変更	
	計	588	1	178		163		189	1	33		25				
	通信制課程 普通科	54		7		14		10		23						
明 豊 中 学 校		153	1	50		50	1	53								
明 星 小 学 校		270		51		54		35		67		31	32			
明 星 幼 稚 園	(年齢別園児数)	225		3才児 60		4才児 81		5才児 84								
附 属 幼 稚 園	(年齢別園児数)	152		3才児 37		4才児 56		5才児 59								
附 属 特 殊 学 校	全日制課程	154		88		66										
	通信制課程	258		80		178									平成16年度設置	
境 川 保 育 園	(総園児数)	66		乳幼児～5歳児 66											平成16年度設置	
春 木 保 育 園	(総園児数)	70		乳幼児～5歳児 70											平成19年度設置	
学校法人別府大学総計			5,459	538	1,709	152	1,745	180	1,013	67	904	139	56	32		

備考：留学生は内数

学校法人別府大学の事業報告

少子化により大学全入時代とも呼ばれ、学校が市場原理により淘汰される時代である。私学にとって厳しい環境の中、別府大学及び別府大学短期大学部は、平成18年度に文部科学大臣の認証を受けた評価機関による大学・短期大学の教育、研究、組織、管理運営、施設・設備、財務状況等について評価を受けた結果、適格と認定された。今後も学校法人別府大学は、平成20年に創立100周年を迎える学問の府としての伝統と個性を生かし、教育研究内容の更なる充実と安定した財務運営を続けて行く。

第2次中期財務計画(平成17年度から平成19年度の3カ年)の2年目にあたる平成18年度は、計画に対し全般的にバランスのとれた良好な成績であった。以下、この計画に基づく、平成18年度の事業内容と財務状況を報告する。

1. 学部・学科の設置等

(大学部門)

平成18年4月から、食物栄養学部を食物栄養科学部に名称を変更し、同学部に食物バイオ学科を増設した。また、同年4月1日に大学院食物栄養科学研究科食物栄養学専攻修士課程を開設した。

(短期大学部門)

平成18年4月1日に保育科の入学定員を50人から80人、食物栄養科の入学定員を30人から50人に増やした。

2. 教育研究活動

(第三者評価について)

別府大学は、平成18年度に財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受け、同評価機関が定める大学の教育、研究、組織、管理運営、施設・設備、財務状況等について評価を受けた結果、適格と認定された。

短期大学部は、平成18年度に財団法人短期大学基準協会による認証評価を受け、同協会が定める短期大学の教育、研究、組織、管理運営、施設・設備、財務状況等について評価を受けた結果、適格と認定された。

(大学部門)

(1) 教育研究施設としての別府大学アーカイブズセンターの設置

本学及び地域の記録資料等の収集・保管・閲覧公開・展示及び調査研究を行い、本学教員、学生の教育・研究に資し、かつ社会に貢献することを目的として設置した。

(2) 高度情報化の充実・強化

別府大学創立100周年記念事業の一環として「別府大学メディア教育・研究センター」を建設した。当センターを情報の集積・発信拠点と位置づけ、講義に利用するコンテンツの開発と発信をはじめ、双方向の通信技術を利用した遠隔授業や産学官の連携がはかれることを目的として設置した。

大学事務システムの再構築を平成17年度からの継続事業として実施した結果、履修登録、成績処理が迅速化され、学生に対する教学上の支援体制を充実・強化できた。

(短期大学部門)

専攻科初等教育専攻が推進している教員養成 G P 「教育マイスタープロジェクト」の取組みが完成年度を迎え、学生に対する教育研究成果とともに、現場教員に対しても良い刺激になると教育現場からも高い評価を得ている。

(附属学校部門)

- ・明豊高等学校では、生徒の進路指導・学習意欲向上対策として、キャリアガイダンスを充実させるとともに、別府大学教員による「進路啓発講演会」や「出前授業」等を実施した。その結果、よりしっかりした職業観が育成され、別府大学ならびに別府大学短期大学部に昨年より 12 名も多く、40 名が進学した。
- ・明豊中学では、生徒の個性に応じて、難関大学を目指す「特別編成クラス」とスポーツの能力を発揮しながら、基礎的な学習力をつける「チャレンジクラス」を開設した。クラスの特性にあった授業展開が可能で、授業が分かりやすい、意欲が湧いてくると好評である。
- ・明星小学校では、教員の資質を高めるため、「授業公開研究会」を実施し、県内外から約 100 名の参加があった。

3. 地域・企業との連携事業活動

(1) 自然体験学習施設「ゆふの丘プラザ」の運営状況

入所利用者 183 団体 22,518 人（前年度比 6,842 人増加）が自然体験学習、スポーツ活動及び国際交流等の研修で利用した。

利用収入は 44 百万円（前年度比 15 百万円増加）を計上した。

(2) 地方公共団体等からの受託研究事業を積極的に推進し、地域との連携に努めた。

実績は受託件数 21 件、受託金額 13 百万円となり、前年度実績（件数 12 件、金額 12 百万円）を上回った。

(3) 生涯学習事業として、「第 1 回別府大学シニアゆけむり短期留学」を開催した。西日本地区より 11 人が参加し、8 日間の開催中に 12 の講義と大分キャンパスでのグランプリコンサート等 7 つの現地研修を受講し、好評を得た。

(4) 公開講座として、大学と短期大学部で 16 講座、延べ 9,545 名の市民、学生等が受講した。

(5) 大分県が収蔵する「旧大分香りの森博物館の収蔵品」を、本学園に無償で貸与されることとなり、学園創立 100 周年記念事業の一環として、大分香りの博物館（仮称）の建設を決定した。

4. 国際交流活動

短期大学部では、学長と初等教育科の教授が韓国の国際交流協定校を訪問し、教職員及び学生・生徒を対象に「正しい日本語」の講演会を行い、日本語に対する興味を喚起し、大いに成果を収めた。

例年開催している国際セミナー（夏季・冬季）については、国際教育・学術交流を締結している学校を中心に 22 校より 327 名の学生を受け入れた。国際交流協定校は新たに 4 校と国際交流協定を締結し、65 校となった。

明豊中学・高等学校についても、修学旅行を利用して、韓国、台湾の国際交流協定校と相互訪問を行った。

5. スポ - ツ・文化芸術活動の充実・強化

芸術・文化やスポーツ活動において優秀な成績をおさめた学生・生徒・児童に対して、奨励賞を授与するなど、スポーツ文化芸術活動の振興・発展に努めた。

6. 施設設備の整備

- 別府大学メディア教育・研究センター棟の完成
- 文化財解析システムの整備
- ホームページを活用した Web 版大学事務システムの完成

7. 外部資金の導入実績

- 別府大学メディア教育・研究センターの備品整備に対し、文部科学省から 101 百万円
- 文化財解析システムの整備に対し、文部科学省から 12 百万円
- 教員養成 GP ほか 10 件の採択制補助金事業に対し、文部科学省から 28 百万円
- 科学研究費補助金、受託研究事業に対し、国や地方公共団体から 20 百万円

8. 学生・生徒・児童・園児の在籍数 (以下「学生数」と表示)

学校法人全体の学生数は別表のとおり 5,603 人、前年度より 28 人減少した。

平成 18 年 5 月 1 日現在、単位：人

学 校	学 科 等	H18 年度
別府大学	大学院	105
	文学部	2,204
	食物栄養科学部	320
	別科日本語課程	50
	大学小計	2,679
別府大学短期大学部	食物栄養科	83
	初等教育科	366
	保育科	137
	地域総合科学科	285
	専攻科 (福祉・初等教育)	63
	短大小計	934
明豊高等学校	全日制課程・ 通信制課程	684
明豊中学校		149
明星小学校		263
附属幼稚園		157
明星幼稚園		220
附属看護専門学校	全日制課程・ 通信制課程	449
境川保育園		68
	学校法人合計	5,603

学校法人別府大学の財務状況

資金収支計算書

平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで

(単位：百万円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,784	3,773	11
手数料収入	73	66	7
寄付金収入	43	30	13
補助金収入	1,105	1,145	40
国庫補助金収入	678	723	45
地方公共団体補助金収入	427	422	5
その他補助金収入	0	0	0
資産運用収入	67	63	4
資産売却収入	0	0	0
事業収入	330	340	10
雑収入	193	175	18
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,775	1,747	28
その他の収入	1,134	1,077	57
資金収入調整勘定	2,079	2,088	9
前年度繰越支払資金	3,024	3,024	0
収入の部合計	9,449	9,352	97

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,181	3,123	58
教育研究費支出	1,006	953	53
管理経費支出	303	278	25
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	428	414	14
設備関係支出	451	376	75
資産運用支出	706	806	100
その他の支出	303	311	8
予備費	10	0	10
資金支出調整勘定	157	210	53
次年度繰越支払資金	3,218	3,301	83
支出の部合計	9,449	9,352	97

消費収支計算書

平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで

(単位：百万円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,784	3,773	11
手数料収入	73	66	7
寄付金収入	52	41	11
補助金収入	1,105	1,145	40
国庫補助金収入	678	723	45
地方公共団体補助金収入	427	422	5
その他補助金収入	0	0	0
資産運用収入	67	63	4
資産売却差額	0	0	0
事業収入	330	340	10
雑収入	193	175	18
帰属収入合計	5,604	5,603	1
基本金組入額合計	715	886	171
消費収入の部合計	4,889	4,717	172

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,124	3,093	31
教育研究費	1,501	1,449	52
管理経費	345	318	27
借入金等利息	0	0	0
資産処分差額	4	4	0
徴収不能額	20	22	2
予備費	10	0	10
消費支出の部合計	5,004	4,886	118
当年度消費収入超過額	115	169	
前年度繰越消費収入超過額	247	247	
基本金取崩額	0	4	
翌年度繰越消費収入超過額	132	82	

貸借対照表

平成 19 年 3 月 31 日現在

(単位：百万円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	24,011	23,642	369
有形固定資産	14,712	14,448	264
土地	3,927	3,901	26
建物	7,554	7,507	47
構築物	709	742	33
教育研究用機器備品	1,189	956	233
その他の機器備品	101	103	2
図書	1,209	1,180	29
車輛	23	21	2
建設仮勘定	0	38	38
その他の固定資産	9,299	9,194	105
借地権	25	25	0
電話加入権	0	5	5
施設利用権	398	398	0
有価証券	3	3	0
各種引当特定預金	8,873	8,763	110
流動資産	3,608	3,377	231
現金・預金	3,301	3,024	277
未収入金	274	347	73
前払金	26	1	25
貯蔵品	7	5	2
資産の部合計	27,619	27,019	600

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,196	1,226	30
長期借入金	0	0	0
退職給与引当金	1,196	1,226	30
流動負債	2,009	2,096	87
短期借入金	0	0	0
未払金	210	242	32
前受金	1,747	1,794	47
預り金	52	60	8
負債の部合計	3,205	3,322	117

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号基本金	20,759	20,012	747
第 2 号基本金	1,825	1,690	135
第 3 号基本金	1,400	1,400	0
第 4 号基本金	348	348	0
基本金の部合計	24,332	23,450	882

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	82	247	165
消費収支差額の部合計	82	247	165
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	27,619	27,019	600



監事監査報告書

財産目録

平成19年3月31日現在	(単位：百万円)
資産総額	27,619
内 基本財産	14,877
運用財産	12,742
収益事業用財産	0
負債総額	3,205
正味財産	24,414

学校法人別府大学
理事長 西村 駿一 殿

平成19年5月17日
学校法人別府大学

監事 此本 英一郎 
監事 三浦 義人 

(単位：百万円)

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	186,037㎡ 3,722
建物	82,800㎡ 7,501
図書	317,939冊 1,209
教具・校具・備品	15,049点 1,290
その他	1,155
小 計	14,877
2 運用財産	
現金預金	3,301
積立金	8,873
土地	3,030㎡ 206
建物	673㎡ 53
その他	309
小 計	12,742
3 収益事業用財産	0
資産総額	27,619
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	0
退職給与引当金	1,196
2 流動負債	
短期借入金	0
前受金	1,747
その他	262
負債総額	3,205
正味財産(資産総額 - 負債総額)	24,414

私たち監事は、学校法人別府大学寄附行為第15条に従い、平成18年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）について、会計及び業務の監査を行った結果、次のとおり報告します。

1. 監査の方法
- (1) 会計監査については、会計帳簿と証憑書類との実査、照合等を行い、計算書類の正確性を確認しました。また、公認会計士に監査結果の報告を求め、あるいは適時その監査に立ち会い、公認会計士監査との連携を図りました。
- (2) 業務監査については、理事会に出席して業務の報告を聴取し、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見
- (1) 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録及び事業報告書は、会計帳簿の記載金額と一致し、かつ、学校法人会計基準等の法令に準拠し、学校法人の収支状況及び財政状態を正しく示す適正なものであることを認めます。

- (2) 理事の業務執行の状況は適正であることを認めます。

以上

コック・ド・オール (ゲラン・1938)



ベルド・ヌイ (フラコチール・19世紀)



大分香りの博物館 11月29日開館(予定)



蒸留器